

第百七十一回国参議院經濟産業委員会會議録第四号

平成二十一年四月二日(木曜日)

午前十時開会

委員の異動

三月三十日 辞任 鈴木 陽悦君 補欠選任 藤末 健三君

三月三十一日 辞任 塚田 一郎君 補欠選任 山崎 正昭君

三月三十一日 辞任 藤末 健三君 補欠選任 山崎 正昭君

出席者は左のとおり。 委員長 櫻井 充君

理事 藤原 正司君 増子 輝彦君 山根 隆治君 荻原 健司君 北川イッセイ君

委員 木俣 佳丈君 鈴木 陽悦君 津田弥太郎君 直嶋 正行君 中谷 智司君 前田 武志君 塚田 一郎君 松田 岩夫君 松村 祥史君 丸川 珠代君 谷合 正明君 松 あきら君 松下 新平君

田中 直紀君 二階 俊博君

吉川 貴盛君 谷合 正明君

松村 祥史君 山田 宏君

常任委員会専門員

山田 宏君

事務局側

山田 宏君

本日開会に付した案件

○不正競争防止法の一部を改正する法律案(内閣提出)

○外国為替及び外国貿易法の一部を改正する法律案(内閣提出)

○委員長(櫻井充君) ただいまから經濟産業委員会を開会いたします。

不正競争防止法の一部を改正する法律案及び外国為替及び外国貿易法の一部を改正する法律案の両案を一括して議題といたします。

政府から趣旨説明を聴取いたします。二階經濟産業大臣。

○國務大臣(二階俊博君) 不正競争防止法の一部を改正する法律案及び外国為替及び外国貿易法の一部を改正する法律案の提案理由について御説明を申し上げます。

まず、不正競争防止法の一部を改正する法律案につきまして、その提案理由及び要旨を御説明いたします。

我が國經濟が知識集約型へと移行する中で、事業者の経験や知恵の結晶である技術やノウハウ等

の營業秘密は、企業の競争力の源泉であり、ますますその保護の重要性が高まっております。

これまで、我が國においては、本法の改正によって、營業秘密の保護を段階的に強化してきました。

しかしながら、昨今のグローバル化や情報化の進展により、營業秘密の侵害行為が格段に容易になり、企業は瞬時に致命的な損害を被る可能性に直面しております。

その結果、営利や企業への嫌がらせを目的とした營業秘密の開示行為や、従業員による機密情報の不正な持ち出しなど、現行制度では取り締まることのできない營業秘密の流出事案が相次いでおります。

こうした状況を踏まえ、營業秘密の保護範囲を拡大し、事業者が保有する技術情報等のうち競争上重要なものの流出を防止することにより、事業者間の公正な競争を確保し、我が國の産業競争力を維持・強化するべく、本法律案を提出した次第であります。

次に、本法律案の要旨を御説明申し上げます。

第一に、營業秘密侵害罪が成立するために必要とされる目的について、その内容を拡大します。

これまで、「不正の競争の目的」のものに限定していたものを変更し、営利目的や加害目的をもってなされた行為も処罰の対象に含めます。

第二に、任務違反による營業秘密の不正な入手行為についても刑事罰を導入します。

營業秘密を管理する者が、任務に違反して營業秘密が記録されている媒体を横領したり、無断で複製したりする行為などを新たに刑事罰の対象とします。

続きまして、外国為替及び外国貿易法の一部を改正する法律案につきまして、その提案理由及び要旨を御説明申し上げます。

我が國を始めとする主要国では、安全保障上機微な技術や貨物が国外に持ち出され、核開発等の懸念ある用途に用いられることがないよう、厳格

な輸出管理に取り組んできており、国際社会全体としても、国際連合の安全保障理事会などにおいて大量破壊兵器等の拡散を防ぐための不断の取組が行われているところであります。

しかしながら、国境を越えた人の移動の活発化や情報化の進展により、技術の国外への持ち出しが容易にできるようになり、技術取引等をめぐる環境の変化が進んでおります。

また、不正輸出の事案が頻発しており、抑止力の強化や企業等による自主的な輸出管理の強化が強く求められております。

こうした状況を踏まえ、事業者等が保有する技術や貨物のうち、安全保障上機微なものの国外への流出防止を徹底することにより、我が國の対外經濟活動の健全な発展のための基盤を整備するべく、本法律案を提出した次第であります。

次に、本法律案の要旨を御説明申し上げます。

第一に、安全保障上機微な技術の対外取引に関する規制を見直します。

我が國の居住者及び非居住者との間で行われる取引のみを対象としている現行制度を改め、国境を越えた人の移動により容易に変化し得る居住者又は非居住者の身分にかかわらず、そうした技術を外国で提供することを目的とする取引をすべて規制対象とします。

また、規制の実効性を高めるために、これらの技術が記録された記録媒体の輸出などを規制します。

第二に、厳格な輸出管理を行うため、無許可の輸出等についての罰則を強化するとともに、安全保障上機微な貨物の輸出や技術の取引を業として行う者に対し、經濟産業大臣が定める基準に従って輸出などを行うことを求め、經濟産業大臣が勧告、命令等を行うことを可能とする制度を新設します。

第三に、国連安保理決議を踏まえ、仲介貿易取引に対する規制の範囲に、貨物の売買に基づく取

引のほか、貸借などに基づく取引を追加します。以上が両法律案の提案理由及びその要旨であります。

何とぞ、御審議の上、速やかに御賛同くださいますようお願いを申し上げます。

○委員長(櫻井充君) ありがとうございます。以上で両案の趣旨説明の聴取は終わりました。両案に対する質疑は後日に譲ることといたします。

本日はこれにて散会いたします。
午前十時六分散会

三月二十七日日本委員会に左の案件が付託された。

- 一、ガソリン、軽油の価格安定に関する請願(第一一四号)
- 一、原油・資材・穀物高騰と公的負担増から経営と暮らしを守ることに関する請願(第一二九号)

第一一四号 平成二十一年三月十三日受理
ガソリン、軽油の価格安定に関する請願

請願者 東京都新宿区高田馬場二ノ七ノ一

- 五 濱崎和馬 外九千九百九十九

紹介議員 小池 晃君
この請願の趣旨は、第四号と同じである。

第一二九号 平成二十一年三月十九日受理
原油・資材・穀物高騰と公的負担増から経営と暮らしを守ることに関する請願

請願者 愛知県犬山市薬師一六ノ五 棚橋 健太 外千五百四十四名
紹介議員 大塚 耕平君

この請願の趣旨は、第九四号と同じである。
四月一日本委員会に左の案件が付託された。
一、不正競争防止法の一部を改正する法律案

一、外国為替及び外国貿易法の一部を改正する法律案

不正競争防止法の一部を改正する法律案

不正競争防止法(平成五年法律第四十七号)の一部を次のように改正する。

第二条第一項第七号中「不正の競争その他の」を削る。

第二十一条第一項第二号を削り、同項第一号中「人を欺き、人に暴行を加え、又は人を脅迫する行為をいう。以下同じ。」により、「及び」(営業秘密が記載され、又は記録された書面又は記録媒体(以下「営業秘密記録媒体等」という。)の窃取、営業秘密が管理されている施設への侵入、不正アクセス行為(不正アクセス行為の禁止等に関する法律(平成十一年法律第百二十八号)第三条に規定する不正アクセス行為をいう。)その他の保有者の管理を害する行為をいう。以下同じ。))を削り、「不正の競争の」を、「不正の利益を得る目的で、又はその保有者に損害を加える」に改め、同号を同項第二号とし、同項に第一号として次の一号を加える。

一 不正の利益を得る目的で、又はその保有者に損害を加える目的で、詐欺等行為(人を欺き、人に暴行を加え、又は人を脅迫する行為をいう。以下この条において同じ。)又は管理侵害行為(財物の窃取、施設への侵入、不正アクセス行為(不正アクセス行為の禁止等に関する法律(平成十一年法律第百二十八号)第三条に規定する不正アクセス行為をいう。))その他の保有者の管理を害する行為をいう。以下同じ。))を削り、「不正の競争の」を、「不正の利益を得る目的で、又はその保有者に損害を加える」に改め、同号を同項第二号とし、同項に第一号として次の一号を加える。

一 不正の利益を得る目的で、又はその保有者に損害を加える目的で、詐欺等行為(人を欺き、人に暴行を加え、又は人を脅迫する行為をいう。以下この条において同じ。)又は管理侵害行為(財物の窃取、施設への侵入、不正アクセス行為(不正アクセス行為の禁止等に関する法律(平成十一年法律第百二十八号)第三条に規定する不正アクセス行為をいう。))その他の保有者の管理を害する行為をいう。以下この条において同じ。))により、営業秘密を取得した者

第二十一条第一項第三号を次のように改める。
三 営業秘密を保有者から示された者であつて、不正の利益を得る目的で、又はその保有者に損害を加える目的で、その営業秘密の管理に係る任務に背き、次のいずれかに掲げる

方法でその営業秘密を領得した者

イ 営業秘密記録媒体等(営業秘密が記載され、又は記録された文書、図画又は記録媒体をいう。以下この号において同じ。))又は営業秘密が化体された物件を横領すること。

ロ 営業秘密記録媒体等の記載若しくは記録について、又は営業秘密が化体された物件について、その複製を作成すること。

ハ 営業秘密記録媒体等の記載又は記録であつて、消去すべきものを消去せず、かつ、当該記載又は記録を消去したように仮装すること。

第二十一条第一項第六号中「不正の競争の」を「不正の利益を得る目的で、又はその保有者に損害を加える」に、「第一号又は第三号から前号まで」を、「第二号又は前第三号」に改め、同号を同項第七号とし、同項第五号中「不正の競争の」を「不正の利益を得る目的で、又はその保有者に損害を加える」に、「第三号」を、「第四号」に改め、同号を同項第六号とし、同項第四号中「不正の競争の」を「不正の利益を得る目的で、又はその保有者に損害を加える」に改め、同号を同項第五号とし、同項第三号の次に次の一号を加える。

四 営業秘密を保有者から示された者であつて、その営業秘密の管理に係る任務に背いて前号イからハまでに掲げる方法により領得した営業秘密を、不正の利益を得る目的で、又はその保有者に損害を加える目的で、その営業秘密の管理に係る任務に背き、使用し、又は開示した者

第二十一条第四項中「第一項第一号又は第三号から第六号まで」を、「第一項第二号又は第四号から第七号まで」に改める。
第二十二条中「第六号」を「第七号」に改める。

附 則
この法律は、公布の日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

外国為替及び外国貿易法の一部を改正する法律案

外国為替及び外国貿易法の一部を改正する法律案

外国為替及び外国貿易法(昭和二十四年法律第二百二十八号)の一部を次のように改正する。

目次中「第六章の三 削除」を「第六章の三 輸出等遵守基準(第五十五条の十一、第五十五条の十二)」に、「第五十五条の十二」を「第五十五条の十三」に改める。

第十条第一項中「第二十五条第四項」を「第二十五条第六項」に改める。

第二十五条第一項を次のように改める。
国際的な平和及び安全の維持を妨げることとなると認められるものとして政令で定める特定の種類の貨物の設計、製造若しくは使用に係る技術(以下「特定技術」という。)を特定の外国(以下「特定国」という。)において提供することを目的とする取引を行うとする居住者若しくは非居住者又は特定技術を特定国の非居住者に提供することを目的とする取引を行うとする居住者は、政令で定めるところにより、当該取引について、経済産業大臣の許可を受けなければならない。

第二十五条第二項中「非居住者との間で特定技術を同項第一号の特定の地域以外の地域において提供することを目的とする取引を行うとする居住者」を「特定技術を特定国以外の外国において提供することを目的とする取引を行うとする居住者若しくは非居住者又は特定技術を特定国以外の外国の非居住者に提供することを目的とする取引を行うとする居住者」に改め、「政令で定めるところにより」の下に、「当該取引について」を加え、同条第四項中「第一項第一号」を「第一項」に改め、「売買」の下に、「貸借若しくは贈与」を加え、「第一項第二号」を「第四項」に改め、同項を同条第六項とし、同条第三項を同条第五項とし、同条第二項の次に次の二項を加える。

この法律は、公布の日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

3 経済産業大臣は、次の各号に掲げる場合には、当該各号に定める行為をしようとする者に対して、政令で定めるところにより、当該行為について、許可を受ける義務を課することができる。

一 第一項の規定の確実な実施を図るため必要があると認めるとき 同項の取引に関する次に掲げる行為

イ 特定国を仕向地とする特定技術の内容とする情報が記載され、又は記録された文書、図画又は記録媒体（以下「特定記録媒体等」という。）の輸出

ロ 特定国において受信されることを目的として行う電気通信（電気通信事業法（昭和五十九年法律第八十六号）第二条第一号に規定する電気通信をいう。以下同じ。）による特定技術の内容とする情報の送信（本邦内にある電気通信設備（同条第二号に規定する電気通信設備をいう。）からの送信に限る。以下同じ。）

二 前項の規定の確実な実施を図るため必要があると認めるとき 同項の取引に関する次に掲げる行為

イ 特定国以外の外国を仕向地とする特定記録媒体等の輸出

ロ 特定国以外の外国において受信されることを目的として行う電気通信による特定技術の内容とする情報の送信

4 居住者は、非居住者との間で、国際的な平和及び安全の維持を妨げることと認められるものとして政令で定める外国相互間の貨物の移動を伴う貨物の売買、貸借又は贈与に関する取引を行うときは、政令で定めるところにより、当該取引について、経済産業大臣の許可を受けなければならない。

第二十五条の二第一項中「同項第一号」を「同項」に、「非居住者との間で貨物の設計、製造若しくは使用に係る技術の提供を目的とする取引」を「貨物の設計、製造若しくは使用に係る技術（以下この条において「貨物設計等技術」という。）を

外国において提供し、若しくは非居住者に提供することを目的とする取引若しくは当該取引に関する貨物設計等技術の内容とする情報が記載され、若しくは記録された文書、図画若しくは記録媒体の輸出（以下「技術記録媒体等輸出」という。）若しくは外国において受信されることを目的として行う電気通信による貨物設計等技術の内容とする情報の送信（以下「国外技術送信」という。）に改め、同条第二項を削り、同条第三項中「前条第二項」の下に「又は第三項」を加え、「同項に規定する取引」を「これらの項に規定する取引又は行為」に、「非居住者との間で貨物の設計、製造若しくは使用に係る技術の提供を目的とする取引」を「貨物設計等技術を外国において提供し、若しくは非居住者に提供することを目的とする取引若しくは当該取引に関する技術記録媒体等輸出若しくは国外技術送信」に改め、同項を同条第二項とし、同項の次に次の一項を加える。

3 経済産業大臣は、前条第四項の規定による許可を受けないで同項に規定する取引を行った者に対し、三年以内の期間を限り、非居住者との間で外国相互間の貨物の移動を伴う貨物の売買、貸借若しくは贈与に関する取引を行い、又は貨物の輸出を行うことを禁止することができる。

第二十五条の二第四項中「前条第四項」を「前条第六項」に改める。

第三十条第一項中「及び第七十条」を、「第六十九条の三第二項及び第七十条第一項」に改める。

第五十三条第一項中「非居住者との間で特定技術の提供を目的とする取引」を「特定技術を外国において提供し、若しくは非居住者に提供することを目的とする取引若しくは当該取引に関する特定記録媒体等の輸出若しくは外国において受信されることを目的として行う電気通信による特定技術の内容とする情報の送信」に改める。

第六章の三の章名を次のように改める。

第六章の三 輸出者等遵守基準

第五十五条の十及び第五十五条の十一を次のように改める。

（輸出者等遵守基準）

第五十五条の十 経済産業大臣は、経済産業省令で、第二十五条第一項に規定する取引又は第四十八条第一項に規定する輸出（以下「輸出等」という。）を業として行う者（以下「輸出者等」という。）が輸出等を行うに当たつて遵守すべき基準（以下「輸出者等遵守基準」という。）を定めなければならない。

2 輸出者等遵守基準は、第二十五条第一項に規定する取引によつて提供しようとする特定技術又は第四十八条第一項の特定の地域を仕向地として輸出をしようとする同項の種類の貨物が特定重要貨物等に該当するかどうかの確認に関する事項その他当該取引又は輸出を行うに当たつて遵守すべき事項について定めるものとする。

3 前項の「特定重要貨物等」とは、特定技術又は第四十八条第一項の特定の種類の貨物であつて、その特定国における提供若しくは特定国の非居住者への提供又はその同項の特定の地域を仕向地とする輸出が国際的な平和及び安全の維持を特に妨げることと認められるものとして経済産業省令で定めるものをいう。

4 輸出者等は、輸出者等遵守基準に従い、輸出等を行わなければならない。

（指導及び助言）

第五十五条の十一 経済産業大臣は、輸出等が適正に行われることを確保するため必要があると認めるときは、輸出者等に対し、輸出者等遵守基準に従つた輸出等が行われるよう必要な指導及び助言をすることができる。

第五十五条の十二中「第二十五条第一項若しくは第二項」を「第二十五条第一項、同条第二項若しくは第三項の規定に基づく命令若しくは同条第四項」に、「第二項の規定」を「同条第二項の規定に基づく命令の規定」に改め、第七章中同条を第五十五条の十三とする。

（警告及び命令）

第五十五条の十二 経済産業大臣は、前条の規定による指導又は助言をした場合において、輸出者等がなお輸出者等遵守基準に違反していると認めるときは、当該輸出者等に対し、輸出者等遵守基準を遵守すべき旨の警告をすることができる。

2 経済産業大臣は、前項の規定による警告を受けた者がその警告に従わなかつたときは、当該警告を受けた者に対し、その警告に係る措置をとるべきことを命ずることができる。

第六十九条の四第一項第一号中「第二十五条第四項」を「第二十五条第六項」に改め、同項第三号中「第二十五条第一項若しくは第二項」を「第二十五条第一項から第四項まで」に改め、同条第二項第一号中「第二十五条第四項」を「第二十五条第六項」に改め、同項第四号中「第二十五条第一項若しくは第二項」を「第二十五条第一項から第四項まで」に改める。

第六十九条の六第一項中「一」を「いずれかに」、「五年」を「七年」に、「二百万円」を「七百万円」に改め、同項第一号中「第二十五条第一項」の下に「又は第四項」を加え、「同項」を「これらの項」に改め、同条第二項中「前項第二号」を「第一項第二号及び前項第二号（貨物の輸出に係る部分に限る。）」に改め、同項を同条第三項とし、同条第一項の次に次の一項を加える。

2 次の各号のいずれかに該当する者は、十年以下の懲役若しくは千円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。ただし、当該違反行為の目的物の価格の五倍が千万円を超えたときは、罰金は、当該価格の五倍以下とする。

一 特定技術であつて、核兵器、軍用の化学製剤若しくは細菌製剤若しくはこれらの散布のための装置若しくはこれらを運搬することができると認められる（以下この項において「核兵器等」という。）の設計、製造若しくは使用に

係る技術又は核兵器等の開発、製造、使用若しくは貯蔵(次号において「開発等」という。)のために用いられるおそれが特に大きいと認められる貨物の設計、製造若しくは使用に係る技術として政令で定める技術について、第二十五条第一項の規定による許可を受けないで同項の規定に基づく命令の規定で定める取引をした者

二 第四十八条第一項の特定の種類の貨物であつて、核兵器等又はその開発等のために用いられるおそれが特に大きいと認められる貨物として政令で定める貨物について、第二十五条第四項の規定による許可を受けないで同項の規定に基づく命令の規定で定める取引をした者又は第四十八条第一項の規定による許可を受けないで同項の規定に基づく命令の規定で定める輸出をした者

第六十九条の六の次に次の一条を加える。
第六十九条の七 次の各号のいずれかに該当する者は、五年以下の懲役若しくは五百万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。ただし、当該違反行為の目的物の価格の五倍が五百万円を超えるときは、罰金は、当該価格の五倍以下とする。

一 第二十五条第二項の規定に基づく命令の規定による許可を受けないで特定技術の提供を目的とする取引をした者

二 第二十五条第三項の規定に基づく命令の規定による許可を受けないで同項第一号に定める行為をした者

三 第四十八条第二項の規定に基づく命令の規定による許可を受けないで貨物の輸出をした者

四 第四十八条第三項の規定に基づく命令の規定による承認を受けないで貨物の輸出をした者

五 第五十二条の規定に基づく命令の規定による承認を受けないで貨物の輸入をした者
前項第二号(第二十五条第三項第一号イに係

る部分に限る。)の未遂罪は、罰する。
第七十条中「一に」を「いずれかに」に改め、同条第十六号を次のように改める。

十六 第二十五条第三項の規定に基づく命令の規定による許可を受けないで同項第二号に定める行為をした者

第七十条第十七号中「第二十五条第三項」を「第二十五条第五項」に改め、同条第十八号中「第二十五条第四項」を「第二十五条第六項」に改め、同条第十九号中「又は第三項」を「又は第二項」に改め、「取引」の下に「若しくは技術記録媒体等輸出若しくは国外技術送信」を加え、同条第二十号中「第二十五条の二第二項」を「第二十五条の二第三項」に改め、「売買」の下に「貸借若しくは贈与」を加え、同条第三十号及び第三十一号を削り、同条第三十二号を同条第三十号とし、同条第三十三号を削り、同条第三十四号中「目的とする取引」の下に「若しくは特定記録媒体等の輸出若しくは特定技術の内容とする情報の送信」を、「又は取引」の下に「若しくは特定記録媒体等の輸出若しくは情報の送信」を加え、同条第三十一号とし、同条第三十五号を同条第三十二号とし、同号の次に次の一号を加える。

三十三 偽りその他不正の手段により第二十五条第一項、同条第二項若しくは第三項の規定に基づく命令若しくは同条第四項、第四十八条第一項若しくは同条第二項若しくは第三項の規定に基づく命令又は第五十二条の規定に基づく命令の規定による許可又は承認を受けた者

第七十条に次の一項を加える。
2 前項第十六号(第二十五条第三項第二号イに係る部分に限る。)の未遂罪は、罰する。
第七十一条中「一に」を「いずれかに」に、「二十万円」を「五十万円」に改め、同条中第十一号を第十二号とし、第十号を第十一号とし、第九号の次に次の一号を加える。
十 第五十五条の十二第二項の規定による命令に違反した者

第七十二条中第三項を第四項とし、第二項の次に次の一項を加える。

3 第一項の規定により第六十九条の六又は第六十九条の七の違反行為につき法人又は人に罰金刑を科する場合における時効の期間は、各本条の罪についての時効の期間による。

附 則

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(経過措置)

第二条 この法律による改正前の外国為替及び外国貿易法(以下「旧法」という。)第二十五条の規定又は同条の規定に基づく命令の規定により許可を受けた取引が、この法律による改正後の外国為替及び外国貿易法(以下「新法」という。)第二十五条の規定又は同条の規定に基づく命令の規定による許可を要するものに該当する場合には、当該取引は、同条の相当規定又は同条の規定に基づく命令の相当規定により許可を受けたものとみなす。

2 この法律の施行の際現にされている旧法第二十五条の規定又は同条の規定に基づく命令の規定による許可の申請に係る取引が、新法第二十五条の規定又は同条の規定に基づく命令の規定による許可を要するものに該当する場合には、当該申請については、これを同条の相当規定又は同条の規定に基づく命令の相当規定によりされた許可の申請とみなして、新法の規定を適用する。

第三条 この法律の施行前に貨物の設計、製造若しくは使用に係る技術の提供を目的とする取引、外国相互間の貨物の移動を伴う貨物の売買に関する取引若しくは役務取引等(旧法第二十五条第四項に規定する役務取引等をいう。)又は貨物の輸出に関し旧法、旧法に基づく命令又はこれらに基づく処分を違反した者に対する取引又は輸出の禁止については、なお従前の例による。

る。
(政令への委任)
第四条 前二条に定めるもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置(罰則に関する経過措置を含む。)は、政令で定める。

(検討)
第五条 政府は、この法律の施行後五年を経過した場合において、新法の施行の状況を勘案し、必要があると認めるときは、新法の規定について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。